

6月定例会 一般質問(要旨)

市議会ホームページにて一般質問の録画配信と会議録を公開していますので、ご覧ください。

リベラル鈴鹿 水谷 進 議員

防犯対策について

(質問) 平成27年の鈴鹿市における刑法犯の認知件数は2,453件であり、その約75%が窃盗犯であった。犯罪抑止のためには警察や地域の防犯組織との連携も大切であるが、防犯カメラの設置は大きな抑止効果と考えるので犯罪多発地域などへ至急設置できないか。

(答弁) 防犯カメラの設置は、犯罪抑止に大変有

効であると認識している。本年度、有効性とプライバシーの保護との調和を図り、防犯カメラに対する市民の不安を解消することを目的に、防犯カメラの適正な設置と運用に関する条例の制定を検討している。

設置する場所については、まず駅周辺など不特定多数の方々が利用、通行する場所を想定しているが、その後、設置効果を検証して警察機関と協議を行い、主要交差点や犯罪多発地域等への設置を検討する。

その他の質問 ○自殺対策について

公明党 藤浪 清司 議員

防災対策について

(質問) 近年の大規模地震発生時においては、電気を起因とする火災が多くみられる。停電復旧後に出火する通電火災防止のため、地震の揺れを感知して自動的に電気の供給を遮断する「感震ブレーカー」設置の補助をする自治体が増えている。本市でも設置補助を行い普及を進めるべきと考えるが、いかがか。

(答弁) 阪神・淡路大震災や東日本大震災における火災の多くは、電気関係の出火が原因と分析されている。本市では、防災研修会などで簡易タイプの感震ブレーカー設置の有用性を説明し、普及促進に努めている。今後は、広報すずかに掲載して周知を図るなど、引き続き啓発を行っていく。一部自治体で実施されている感震ブレーカー購入補助制度なども調査し、普及促進の手法を研究してまいりたい。

その他の質問 ○「水銀に関する水俣条約」について
○交通空白地域対策について

鈴鹿の風 中西 大輔 議員

愛着を育む教育について

(質問) ①「社会的相続」における負の相続の影響を小さくするために、小学校で愛着を育む教育をするべきではないか。②子どもの居場所として学校の施設運用を見直す考えはあるか。③子どもの居場所を支援する人材について。④学校区と地域への愛着の関係をどのように考えるのか。

(答弁) ①教育基本計画では家庭・地域・学校が

ともに推進することになっている。郷土教育や環境教育の推進の中で、地域への愛着を深められると考える。②公共施設マネジメントを意識し、児童生徒の安全を第一に考え、放課後などに活用できるか検討する。③現在配置の非常勤講師に加え、地域の方々の協力を得て愛着を育みたい。④学校区と地域の関係は重要と考えている。長年親しまれた学校区は尊重しながら、学校区の見直しがある場合は、地域の方々の意見を聞きながら慎重に進める。

リベラル鈴鹿 森田 英治 議員

下水道事業について

(質問) 下水道事業(汚水)における一般会計からの繰入金について、また1世帯当たりの整備費と今後の状況について伺う。

(答弁) 平成26年度、公共下水道事業(汚水)に約21億7,700万円を繰り入れしている。既整備区域の1世帯当たりの整備費は約160万円で、今後整備する予定の地域は約180万円となる。今後、

国の補助金削減による財政上の懸念や人口減少社会への対応が求められる中、課題も多くあり、本年度、効率的な整備手法の検討業務を行うこととしている。

(意見) 財政状況が厳しい中、下水道事業(汚水)は下水合併処理浄化槽に比べ割高であり、一般会計から21億円超の繰り入れは大きな負担となっている。抜本的な整備手法の見直しを行うよう要望する。

その他の質問 ○国民健康保険について